

木は1年に1回果実をつけ、それを収穫したあとは、長い冬を越えて再び翌年実をつけます。その実を確実に収穫して、次の収穫に備える準備をし、翌年再び実を収穫するという意味で「金のなる木」と名づけました。
【3~5年で資金3倍化を目指して】

(ご案内) レポートの名称が長期投資から資産形成に変わりました。内容の変更はございません

SQ明けの来週以降、調整入りの可能性高い ... 今年2度目の買いチャンス ...

6/4(木)のレポートでは、SQ 1週前の攻防で(週後半安く終わるとプット有利、週後半高くなるとコール有利でSQに向かう動きが決まる)で翌日(6/5)9500円を割れて下げるとなればプット(売り)有利となって今週のSQ(6/12)に向かって下落となって当面の買い場が接近してくるとしました。しかし、9500円を切らなければ中立状態となって為替やNYダウの動き次第となり、買いチャンスはSQ以降にズレ込んでくることとしました。結局、9500円を守れるかどうかのポイントとした6/5(金)はNYダウの上昇と為替の円安から99円の9768円と逆にコール(買い)有利で終わりました。そのため、今週はSQ(6/12)に向かって10000円を試す動きとなり、そこが当面のピークとなる可能性がでてきたこととなります。来週以降は調整入りの可能性が高く、今回はスピーディー調整というよりも日柄も下げ幅もそれなりの調整がでてくると思われますので、あわてて買う必要はなく安くなったところを待って、じっくり買い下がっていく方針がよいでしょう。そのような場面があればあらためて銘柄推奨の買いポイントをレポートすることになります。

株式投資をバクチとしないためには現在の相場の方向性が、テクニカル面でみた時、需給関係でみた時、NYダウの動きでみた時、上に行く確率と下に行く確率のどちらが高いか判断し、方向感が分からなくなったり、下に行く確率が高いと思われる時は、手仕舞って相場を休むことを実行しなければなりません。現在の日経平均をテクニカル面からみると6/8(月)の騰落レシオが138.6%となって4/17の134.74%を更新する高水準となっており、ふつは2~3日遅れて日経平均がピークを打つという経験則があります。又、過去の2年間の日経平均を柴田罫線(週足チャートでもよい)でみると、2007年6/20の18297円、2008年6/6の14601円と6月にピークをつけて本格調整となっており、この6月は要注意の月といえます。そして、本日は先週のSQ 1週前の攻防でコール有利に終わったことで今日は先物主導で売り方の踏み上げをさそい9991円まであって終値も同値の204円の9991円となりました。本日は特別買い上がる材料もありませんでしたが、これがコール有利のSQ特有の動きといえます。今晚、NYダウが高いようですと明日の前場まで高く、そこがピークになる可能性があります。

当面の動きを今週の出島式投資ワールドで書いておりますので以下ご参考下さい。

今週はキャッシュ化し、SQ 以降の調整を待つスタンスへ
... 日経平均は昨年、一昨年の6月にピークをつけて急落 ...

<先週の動きのポイント>

先週、日経平均は6/1(月)に 155 円の 9677 円となって、昨年の 10/15 の 9601 円を終値の陽線でぬけたことで上放れとなりましたが、SQ1 週前のオプションのプット・コールの攻防で週後半安くなると SQ(6/12)に向かって大きく下落し、逆に週後半高くなると SQ に向けてさらに一段高となる確率が高く、NY ダウの日足の動きに売りの形ができてきていましたので、週後半安なることを想定してみました。しかし、その NY ダウは 6/3(水)に一時 142 ドル下げて終値は 65 ドルの 8675 ドルとなり、翌日(6/4)に切り替えして 74 ドルの 8750 ドルとなったことで目先の売りの形は解消してしまいました。しかし、このまま陽線が 2~3 本上に伸びると再度売りに形となってきます。NY ダウは経済指標が改善していることで景気回復期待で買われており、又、原油先物価格が 70 ドル近辺まで上昇してエネルギー株が相場を支えている面があります。GM の破産申請も織り込み済みとして悪材料出尽くしとなって上昇をサポートしましたが、実態経済の悪化に歯止めがかかったかどうかはまだ不透明です。NY ダウの日足の動きの中で 2 回目の売りの形ができてつあるのは、そのためでしょうが、目先の上昇は行く先のない投資資金が商品相場そして株式相場へ流れている結果だといえます。利上げ観測が広がってドルが 98 円台後半まで急騰してきていることは要注意といえます。

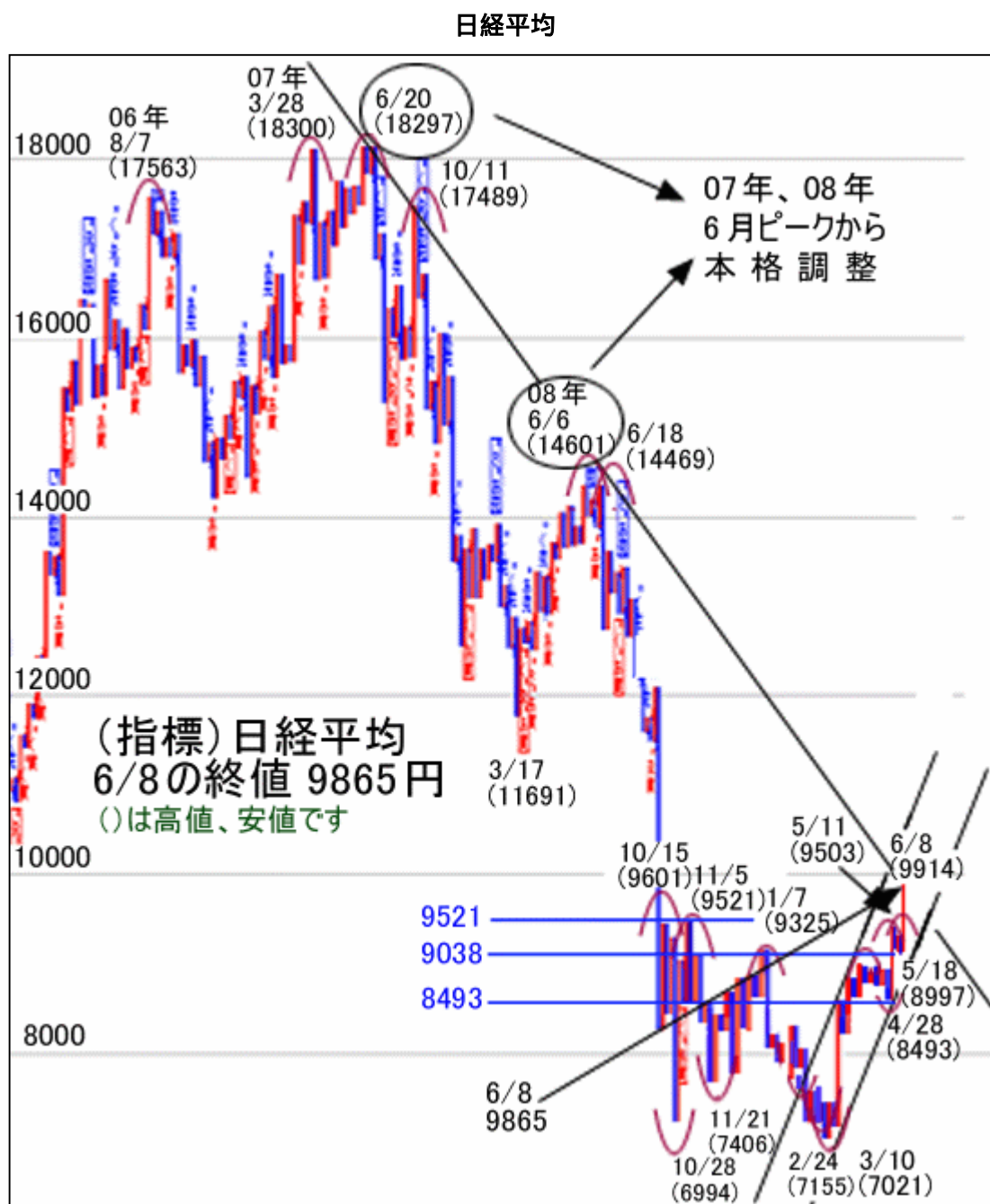
日経平均の NY ダウにサポートされての先週と今週の上昇(今週はコール有利の週)は先物主導の売り方の買い戻しが中心の上昇なので、今週、日経平均の 10000 円前後では基本的にはすべてキャッシュ化するぐらいのスタンスがよいと思われます。もちろん、この上昇の中で先駆した株で調整を続けている銘柄は余裕がある人は買い下がり方針となりますが、全体が大きく下げれば、まだ下げ余地はでてきますのであわてて買っていく必要はないと思います。

<SQ 以降、大きく下げても上昇トレンドの中での下落であり買いチャンスとなる>

先週末の NY ダウは雇用統計で非農業部門の就業者が予想より減少しませんでした、一方で失業者は市場予想を上回りました。しかし、全体としては雇用情勢の悪化ベースがゆるやかになってきていると受け取られ買い先行で 8839 ドルまで上昇しましたが、利益確定売りもでて 12 ドルの 8763 ドルと小幅の続伸でした。先週は NY ダウに売りの形がでたもののすぐに反発となりましたが、週末の形もあまりよくなく、ここから 2~3 本の陽線がでると 2 度目の売りの形がでてくることとなります。週末に 8839 ドルまでの上昇で終値は 8763 ドルとなって長い上ヒゲとなっていますので、ふつはこの上ヒゲを実体で埋めていく動きとなり、9000 ドルに NY ダウの関門(フシ)がありますので、この水準まで上昇すれば日経平均も 10000 円をこえるかこえないかぐらいのところということになります。日経平均にはまだ売りのシグナルはでていませんので、NY ダウの動きに注意することになります。ただ、過去の経験則を重視すると 2007 年の 6/20 の 18297 円、2008 年 6/6 の 14601 円がピークとなり本格調整となっていますので、この 6 月という月は要注意ということになります。

今週 SQ に向かって 10000 円を試す動きとなれば、そこが当面のピークとなる可能性が高く NY ダウが無理して上昇している分、調整も大きくなるかもしれません。しかし、そこは絶好の買いチャンスとなります。というのはこれまでも何度か述べましたが世界の各国が景気回復のための大型の景気対策を打ち出して実行してきており、これが完全に織り込まれるまでは上昇相場が続くこととなります。日本の 1989 年のバブル崩壊以降の経験からすると、大型の景気対策が実行された時は 1 年~1 年半ぐらいの上昇相場となっています。今回の場合の日経平均の上値のメドはチャートからは 12000 円までは真空地帯ですので、この水準ぐらいまでは試すシナリオが考えられます。もちろん、一方的に上昇し続けることはなく、大きな調整がはいりながらの上昇となります。景気回復が弱いようだとして政府は追加の景気対策を打ち出しますので当面は昨年のような暴落は起こらないと考えてよいでしょう。そうするとこんなわかりやすく、儲けやすい相場はないということになります。それは大きな調整を待って買うということを実行しさえすればよいのです。

今週はオプションの週で、コール(買い)に有利となっています。この週はオプション特有の大きな上下動の場面があるのがふつうで、大きく下落するような場面もありますがコール有利のためすぐに反発することになります。反発しても 10000 円を大きくこえることはなく早目に 10000 円に到達してくると先物のヘッジ買いも出尽くしてしまうことになります。今週は 10000 円接近場面で手仕舞いが基本となります。カラ売りは当面の天井が確認できてからがよいでしょう。カラ売りも上昇トレンドの中の調整を狙うこととなりますのでリスクをとれる人ということになってきます。



先週はSQ 1週前のオプションの攻防で週後半安くなればSQに向けて一段安、週後半高くなればSQに向けて一段高としました。NYダウに売りの形があったため週後半安くなるケースを想定しましたが、NYダウの6/3(水)に下落してすぐに切り返したことで週後半も高くなり、今週はSQに向けて1万円を試す動きとなりそうです。

今週SQに向けて上昇すれば今週がピークとなって来週から調整というシナリオを考えておく必要があります。その場合の調整はNYダウが売りの形を内包しながら上昇していることで、下落に転じればかなり大きな調整の可能性があります、日経平均も連動していくこととなります。昨年(2008年)、一昨年(2007年)と6月にピークをつけて大幅下落となっていますので、今週はいったん買いは手仕舞いが基本となります。